

191
90
237

繪本豐臣勲功記

七十八

197
90
25

| | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 東 京 圖 書 館 | | | | |
| 八 〇 冊 | 七 七 號 | 六 六 架 | 二 六 函 | 小 說 類 |
| | | | | 和 書 門 |

繪本豐臣勲功記

八編

八

繪本豐臣勲功記

繪本豊臣勲功記八編卷之八

目録

黒田藏救植田攻小西敗

附 阿州着船

上方勢攻大麻山太被惱

附 仙石義徳

後着入間尻と火水の智恵を戦す図

基次立五材を用て城を攻る図



黒田探水路、陷大麻山城 付 百貫戦死

荒木が刎鎗謀て入間尻を撃圖

兩軍勢加一宮開大合戦 付 秀長危難



繪本豊后勲功記八編卷之八

東京 櫻澤堂山 刪補

黒田藏救植田攻小西紋属阿忍着取

復惣括くして、豹虎よ里強しといふとも。豈おえて風と
紀きの能おらんや。然布どよ小西孫九郎仍長ハ長船主
殿の助云よ統去し。七月二日の寅の上刻、植田の城に攻
進る。先陣ハ長船主殿、後陣ハ長船主殿。二陣ハ小西孫九郎仍
長兩軍合せて四千餘人、植田の城へ推進せむ。黒田孝高
ハ。後陣又備え。後及基次ハ、百餘人、雲母坂の陰に埋伏
す。這、駒植田の城中にハ。細川源左衛門。後、各小集て謀合
款と十分、又勾引、倚せ、塵ません、と、味雷と、香る。結り返て

侍西元。袴紀とる上。方勢。柵際まで。疾くと。推進せ。喊と作
 て。柵際角播と。捨去。松去。本。戸佐十郎。柵田。城の。一番。捨と
 号呼。二。回。棟の。捨。お。振。く。面。も。筋。ら。だ。棚。て。入。バ。お。ま。お
 續。て。唇。も。く。と。統。進。で。三。重。の。柵。と。越。え。か。く。勢。破。り。一。時
 又。遠。い。と。乘。破。ら。ん。と。誓。地。の。攻。登。る。と。細。川。源。左。衛。門。の。
 お。も。ふ。國。は。敵。と。引。倚。せ。時。分。い。よ。し。と。晴。号。の。右。靴。を。撰
 唱。せ。バ。城。名。一。吐。は。統。と。作。り。各。統。と。誓。お。ま。こと。電。教。の
 め。く。或。ハ。大。木。大。石。と。抛。惹。く。お。や。ま。し。り。の。ま。ぞ。先。は。進
 る。一。致。率。輩。續。く。よ。お。つ。て。誓。切。が。ま。過。半。ハ。疲。負。死。人
 と。あ。る。長。船。小。西。大。に。驚。き。斯。ハ。謀。計。は。漏。さ。れ。ら。る。り。朽
 憾。さ。よ。と。斷。断。と。あ。し。今。ハ。馬。田。の。目。前。も。あ。ま。ま。退。は。も

退。き。ぞ。死。ね。や。く。と。激。音。記。標。惹。く。攻。む。る。存。び。晴。号
 の。統。揮。廻。せ。バ。喊。の。聲。ハ。方。不。奈。記。美。く。と。推。捕。回。む。長。船
 小。西。警。備。ふ。一。倭。僮。子。礼。記。細。川。得。し。り。と。徳。隊。一。同。小。統
 懸。あ。し。城。門。祖。と。推。開。き。大。將。源。左。衛。門。正。科。又。馬。と。進。て。
 回。角。八。面。は。撃。て。止。ま。バ。背。門。より。ハ。國。右。甚。吉。備。馬。と。躍
 ら。せ。斬。て。出。千。變。可。化。と。擡。記。く。一。個。も。餘。さ。ぞ。誓。て。捉
 き。と。攻。着。る。こと。烈。し。く。ま。ま。バ。小。西。竹。長。今。ハ。た。や。籠。中。の
 名。の。遁。出。べ。き。路。も。あ。く。布。と。く。急。ふ。り。り。ける。所。へ。本
 戸。佐。十。郎。馳。来。り。小。西。と。救。ふ。て。命。から。く。右。傾。危。例。は
 逃。退。く。長。船。至。殿。ハ。此。破。と。看。る。より。是。も。後。方。が。先。云。は。和
 入。て。今。ハ。あ。ん。の。面。前。あ。つ。て。り。命。と。全。く。退。く。べ。き。城。將

細川源左衛門と豊後守と撃つて。勝負と一時は決せんむと。元章
 目當て馳進る馬前。誰が撃出せを統よ。長船主殿が
 胸板。水もたまらむ。撃抜くは馬より墮て死てり。浮
 田が殘る軍軍まれて。戦死せるもの數多き。這响黒田
 孝高ハ。隊伍と固めて。争も勅り。敵軍の軍と看獲る。不
 又。小西の長續くはありて。黒田が陣へ輝亮る。孝高隊伍
 と尤右に領て。敵を中又技客を尤右より自勝と探出
 せ。其際もあらせむ。細川元章。自方と懸ま。返来り。小西
 が勢と追逼て。斬屋さんと乱突せる。黒田が曾兵三子
 餘人。細川が勢とゆる。量限と減合せ。在際もあむ。雲
 母坂の蔭に炮鳴。煙伏あし。る後。後亦音信が。又百

餘騎。東谷西林より。紀磨。四面の林に領て。了。桔葉燒
 州を積。金るるが。あせへ。一時又火と敵つ。も。喊と作て
 突。突。一。り。せ。バ。勝。勝。する。敵。兵。軍。東。西南。北。又。逃。惑。ふ。後。路
 又。繞。り。一。黒。田。の。陣。より。營。六。之。助。母。里。太。兵。衛。栗。山。使。中
 正。斜。に。露。出。て。攻。着。る。る。それ。む。り。り。ハ。浮。田。七。右。衛。門。松
 原。七。郎。右。衛。門。が。幸。万。餘。人。怒。潮。の。如。く。沸。て。出。細。川。一。隊
 と。中。又。捕。網。割。一。ハ。セ。ト。と。樓。記。り。せ。バ。了。得。の。敵。將。源。九
 一。門。も。既。に。戦。死。と。覚。悟。あ。し。死。憤。と。祭。一。て。戦。不。折。へ。城
 主。長。曾。我。右。衛。門。清。耐。自。勝。と。率。て。撃。て。出。幸。く。細。川。を。救
 出。し。十。死。一。生。の。虎。に。と。遁。を。遠。く。城。中。へ。退。入。ら。ん。と。も。
 黒。田。懸。一。く。指揮。あ。し。て。忌。投。又。せ。ん。と。焚。め。き。け。せ。ど。も。

右兵衛尉を強く拒抗で。城門を固く固ける由也。是まで
 ありと徳勢を纏め陣取く。一返きなり。信成中より細
 川元章。深く謀て款を乞ふ。塵をせんと思ふ。國と悪田が
 又初めを致し。ゆるると悟念を懐ひ。今一戦して生死と
 茲に決せんむの。と怒る。右兵衛尉志をく。練
 めて。本國より加勢を乞ふ。故と海外へ返さんより外
 ありと。陣取既決し。大將元親の在陣し。大
 西白地へ馳馬と達。加勢の陣を乞ふる。彼國も秀長秀
 次の兩將既。後海。合戦の最中。あき。他國へ救も出
 がとく。伊豫。又在る。信成の言へ。植田の加勢と言送り
 ー。う。バ。信親。即時。承知して。後夜。加勢。又來ら。是。なる

分。植田の城より二里隔て。西北の山。陣を結び。狼烟と
 沖て。城中へ。加勢の來り。通知とあり。旗當。標を多く推
 標。款。軍威と示し。城中新と。ある。より。も。將率。借。不
 款。び。控。合戦の。准。依。專。し。て。蹠。蹠。と。窺。ひ。待。惹。り。上
 官。勢。も。山。の。子。款。の。加。勢。の。か。ち。る。城。看。て。城。の。口。方。の
 因。と。解。二。三。町。程。退。て。柵。と。固。う。一。壇。と。築。う。陣。と。搦。ふ
 る。あ。と。嚴。重。ふ。あ。し。信。將。と。集。め。て。軍。旗。を。送。ぶ。然。る。不。當
 救。小。西。乃。長。長。叔。紀。保。守。と。謀。合。せ。救。菟。あ。し。て。救。勢。し。け
 る。分。却。て。信。成。が。謀。計。不。臨。入。ら。き。浮。田。悪。田。の。法。軍。勢。ま
 で。隊。暴。く。致。ら。き。總。攻。軍。も。送。ぶ。べき。哉。後。着。が。奇。妙。の
 幸。隊。伍。と。り。て。信。親。が。勢。と。喫。攻。め。ら。る。由。也。各。城。中。へ。退。揚

けり。そとふも懲む。小西再三不覺と取る。女ららむ
 既に軍法も行ふ。いるべき。茂田が仁意の陪解。よ
 里。その案。よして。園きり。斯て亦茲。阿比の撃隊と
 て。大和。大納言。秀長卿と大将と。あし。副将。よハ。近江。中細
 言。秀次卿。おと。隨ふ。個。よハ。降須。賀長。門守。正勝。同。彦
 右。清。門。家。政。道。壹。佐。渡。守。言。虎。堀。九。清。門。督。秀。政。一。柳。監。物
 直。盛。倭。軍。艦。よハ。堀。田。右。衛。門。尉。長。盛。導。示。士。よハ。仙。石。推
 去。清。秀。久。る。と。り。の。業。内。を。又。令。せ。ら。む。捨。列。尼。が。崎。よ
 り。彘。航。志。て。淡。列。須。本。よ。稍。暫。く。船。待。と。して。あ。ま。け。る。が。
 秀。次。卿。も。一。隊。よ。あ。り。総。勢。が。合。六。万。餘。騎。須。本。の。浦。よ。陣
 營。と。連。ぬ。数。千。艘。の。艦。艦。と。船。舳。家。の。旗。南。樫。陣。幕。風。際

船。航。その。紋。不。と。着。て。や。ま。バ。五。三。花。臺。の。陽。桐。ハ。い。え。ね
 と。知。る。き。本。陣。よ。して。九。輪。樓。三。龜。甲。降。須。賀。万。字。立。本。丸
 番。籠。と。り。三。柏。俣。陪。從。の。陣。廠。よ。ハ。三。浦。三。引。堀。田。菱。小
 堀。丁。子。ハ。陰。よ。あ。せ。大。屋。の。行。拔。山。本。ハ。四。石。墨。中。崎。の。左
 井。幹。よ。右。井。幹。小。田。切。桔。枝。青。山。殘。三。宅。輪。房。喪。鶴。の。丸。中
 根。ハ。茗。荷。の。抱。合。七。夏。目。が。表。さ。る。菊。井。折。綾。て。水。田。の。四
 目。結。お。も。ひ。く。の。家。下。又。色。七。色。混。雜。暴。き。浦。風。不。吹。ふ
 び。ろ。し。晴。く。刻。く。よ。金。鼓。と。あ。ら。し。天。声。地。音。よ。破。序。と。調
 べ。て。月。冷。し。り。り。り。結。陣。あり。浩。る。不。へ。内。府。より。加。茂
 吉。川。小。早。川。黒。田。浮。田。倭。後。海。し。て。所。後。後。三。國。の。軍。の。注
 伸。勝。利。の。よ。し。と。告。ら。せ。り。り。由。急。二。卿。と。叙。佐。大。將。ら

豊臣評伝

四

驚て去来さらば。海上風波暴くとも。途渾は途を。加茂
 黒田又軍切とて。赤奪をせん。快乗出せと。各々標集。當日
 の五月初の六日。標と揚させ。繩解け。須本の浦と。突帆
 あり。阿波と。出て。擡進る。佐も。向方の阿波國と。長谷我が
 が。防禦は。まづ。北泊。北泊も。板東郡。小野。戸の。岬。あり
 り。又。東條。九。赤。長。清。今。境。山の。守。禦。あり。つ。さ。り。し。が。三。千。騎
 きて。固。より。板。東。本。津。も。城。と。築。き。三。好。の。先。陣。東。條。國
 と。擡。て。其。勢。不。子。孫。人。と。ぞ。供。一。の。文。の。城。より。到。勇。の。武。士
 來。つ。答。忠。各。清。を。可。條。人。岩。倉。の。城。より。一。の。文。の。城。より。來。り
 福。富。飛。孫。守。熊。若。仔。豆。守。と。お。い。ふ。源。助。又。子。孫。人。も。て。ま。も。ら

せ。り。將。長。為。我。親。ハ。本。國。土。佐。と。出。馬。して。阿。波
 大。西。卿。白。地。の。城。又。對。應。守。白。地。ハ。三。よ。く。三。方。の。對。陣。と
 固。む。然。る。又。土。佐。の。一。國。ハ。四。山。の。うち。も。殊。は。要。害。よ
 き。地。あり。亦。西。存。豫。の。うち。も。森。多。宇。和。の。二。郡。ハ。幽。谷
 多。炭。多。く。して。外。より。入。と。難。き。地。あり。殊。は。小。笹。の。志
 げ。是。る。山。よ。て。三。里。の。山。嶽。大。切。の。不。あ。ま。ば。播。磨。郡。極。多
 土。佐。の。中。村。又。若。良。丸。京。と。宰。城。あ。ま。さ。し。め。東。は。阿。波。の。國
 耶。賀。海。郡。の。二。郡。ハ。倭。編。の。地。あ。ま。ま。半。波。海。郡。又。香。守
 我。親。親。と。在。城。あ。ま。さ。し。む。それ。より。海。郡。宮。倉。郡。根。甲。浦
 甲。の。浦。ハ。土。佐。の。安。藝。々。あり。所。根。又。到。る。まで。ハ。一。日。行。程
 大。切。の。不。あ。ま。ま。守。兵。を。盡。て。ハ。極。ふ。危。う。く。ま。ま。つ。と。甲

豊臣評伝

の浦より土取野登山まで。十餘里が陸人煙終る。險路
 一して一騎の山越るも。備後海防境より出入る。
 是ぞ大指の要隘ありとて。土別長尾の守禦として。四男
 右衛門尉三男とハ孫あり三男ハ盛親と隊將として。
 小野宗景南内庄左衛門尉と副て。幸万餘人甲浦に出陣あ
 さいめ。親泰又力と勸せて。防戡をべいと。指揮と佐へ
 佐治阿列大西へ。土佐より七里の山越えて。要害堅固の
 敷取をせ。元親まゝ。互左陣して。三國の守禦を密固む。
 此地ハ屯も土阿孫濤の正中土として。法方へ傳音の便
 宜の地あり。大西の白地より。修濤の水津口へ五里西渡
 一里あり。傳て佐治濤及植田の城ハ。阿列殿の城より山お

えまき。三里五斗あり。元親計謀を謀合せ。植田の
 城又右左衛門尉元之。細川源左衛門尉。籠籠。殿の城主長考我
 初利兵衛と力と合しめて。大西の羽翼をまゝ。まつと
 西渡。波の香川氏へ。元親の次男。三男。次男。親明と。養子
 たりし。めける。又國香川と。りて。防がしめ。長尾の城主
 國右甚左衛門尉。二子。孫人。又て守らしむ。元親ハ二子。孫人
 と率して。白地の城。又在て。濤及合戦の蹶蹶と。結と。あろ
 又。濤及攻撃の上。方勢。大軍と。もつて。阿波國へ。攻將よ
 聆えり。まき。バ。強く。あ。と。敵。く。は。彼。國。又。聆。て。も。木。津。岩。倉
 一。文。ハ。最。も。平。原。易。攻。の。地。と。れ。バ。兵。と。用。る。上。利。あ。ら
 一。如。何。又。も。故。と。南。方。の。險。地。又。繁。急。悩。ま。べ。いと。智。謀。の

豊後諸小領者考

廿六

元親、後及、推して、河及、小
 平、招、敵、の、強、方、を、禦、せ、ん、と、め、遊、軍、又、備、へ、む、其、ハ、固、ま
 茲、又、秀、長、秀、次、の、兩、大、將、及、其、の、餘、の、諸、將、連、も、數、不、破、
 て、風、波、と、乘、切、阿、波、の、泊、又、是、船、也、這、取、又、ハ、東、条、九、弟、各
 清、柵、鹿、角、橋、と、結、か、ま、え、弓、矢、統、と、ま、び、一、く、備、へ、敵、去、ま、
 よ、せ、お、バ、殺、殺、せ、ん、と、侍、又、お、ど、お、く、降、須、賀、後、堂、極、仙、石
 が、艦、隊、先、と、争、て、ち、お、ど、お、と、陸、へ、ハ、此、も、上、紀、ま、
 大、炮、小、炮、い、ろ、く、の、箭、を、射、出、撃、出、正、意、又、お、つ、て、降、
 り、の、也、也、先、乘、船、先、又、看、え、り、の、代、吊、智、又、富、
 物、法、隊、又、後、ま、て、推、進、り、の、が、防、禦、あ、る、方、へ、向、を、ん、り、
 西、又、押、と、出、し、る、山、より、よ、く、ハ、易、の、と、ん、と、撓、振、整、
 一、柵、監

て、西、岸、へ、着、地、又、推、切、と、降、須、賀、固、早、く、此、と、お、て、お、
 柵、の、軍、勢、へ、よ、き、上、場、と、見、忍、し、ぞ、自、分、の、取、も、あ、の、方、へ、
 快、推、進、せ、よ、と、急、又、格、揮、お、し、必、と、喚、て、推、切、ん、る、が、降、須、
 賀、ハ、大、將、お、り、一、柵、ハ、小、將、あ、る、也、也、一、柵、の、兵、率、が、半、分
 お、り、り、一、柵、の、取、と、突、進、推、進、正、先、又、上、將、降、須、賀、意、ま、そ
 阿、波、の、固、の、一、番、急、と、呼、び、り、
 先、隊、又、後、ま、て、敵、百、の、多、統、東、条、が、陣、の、接、合、り、
 攻、起、る、不、了、得、の、東、条、九、弟、各、お、も、ま、ま、一、悟、で、お、ける、哉、
 法、一、交、不、和、と、乘、附、怒、潮、の、渚、と、卷、撫、如、く、千、方、万、面、よ
 里、推、進、り、せ、バ、東、條、等、も、揺、ら、ぞ、一、て、右、横、左、横、又、敵、
 本、津、と、當、て、ぞ、放、走、ま、る、也、也、又、よ、つ、て、総、軍、殘、ら、ぞ、泊、の

津又云和赤一。在く所くと放火して。撫養小水陣と結接
せらば被將と集て城攻の陣後又ぞ遠づけける

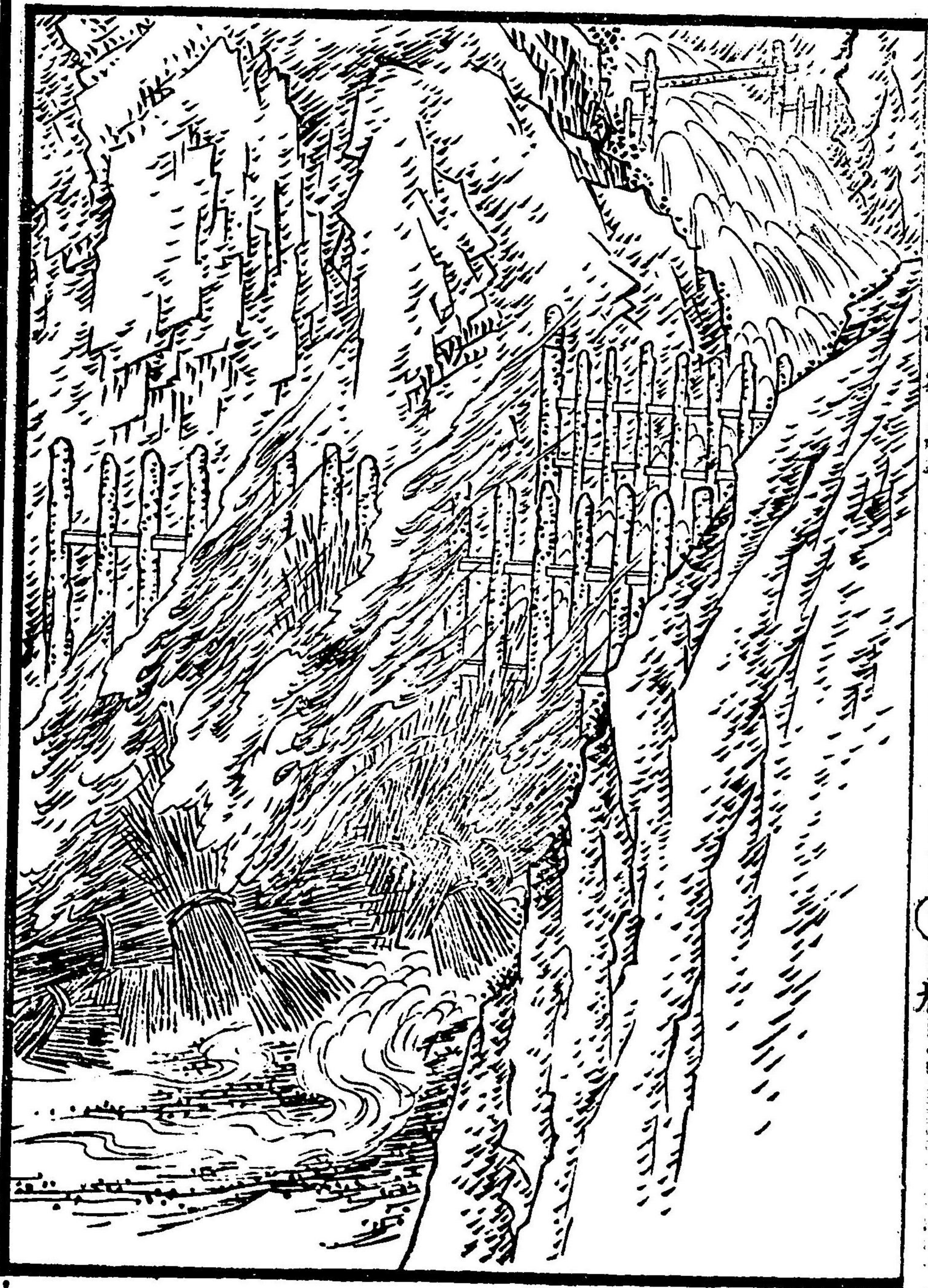
上方勢攻大森山大被惱 属 仙石義徳

世務も非といまべりうぎ。機まを群とあはれけへ。堤とく
づまあるものと元親自力と強一と。山海の険と據む
とも。天よく助けて征伐をあると。いりてり。高き果をさべ
きや。然赤ど又上方の徳軍勢。三方より攻る中も。所攻
上陸の陣勢ハ。六百餘人ありり。由え。廣くもあ。ぬ崖
岸と。次取又登来りつも。松表又本陣と居られけるハ。秀
長秀次の両方あり。それ又續て陣須賀。高堂。堀。一柳。仙石
増田。倚。不も山。又も陣。殿と連ぬ。旌旗力。陰。半空と。耽。翻。

軍威廣大なる況又。後別後海の徳大将。田等と。二万
石の軍勢を率ひ。入坂。城。大坂と。記ハ。非なり。して。松表
あり。大将の本陣。不。弛。泰り。着陸の賀と。速り。あ。ど。両
大又。款。悦。せら。は。信。將。又。對。面。せ。さ。せ。玉。ひ。軍。の。陣。後。又。遠
む。ま。ら。ら。ら。遠。大。軍。と。二。言。又。分。て。秀。長。ハ。一。の。文。又。向。を
せ。玉。ふ。然。る。不。岩。倉。の。城。と。守。る。長。考。我。が。掃。部。政。綱。と。そ
して。防。殺。せ。り。う。ど。愚。田。孝。富。の。名。と。係。て。遂。又。城。と。乘。取
り。ま。は。城。將。掃。部。政。幸。う。して。岩。倉。の。圍。と。遁。也。大。森。山。又
逃。上。り。入。野。尻。又。對。面。して。落。城。の。事。と。群。又。禪。る。に。助。六
左。兼。つ。大。又。憤。怒。し。我。遠。誠。又。在。り。う。ハ。款。發。万。騎。よ。ま。る
とも。怖るべきおと。交。み。あ。し。謀。計。と。も。つ。て。塵。弓。を。人。御。



後藤智
火と放る防木と
焼ハ入間尻却
智水と澆る是で滅ま



豊前守
山崎

意寧ふおへまべーと。主従と惣都て繞一懸ぬ。酒肴と饗
 して疲勞と治しつり。开も此座を大麻山ハ。阿忍寺一
 の穀所として。後背の連山遠く濛及の地と通ト。要崖堅
 固の山城として。おまを守る大将ハ。入る危助古尤東門
 百貫といふ。智勇達練の名士あり。巧て長考我の掃劔
 預弛加りて勢威最も博大あり。浩る所へ近に中納言
 秀次卿岩倉破却の氣と乗トて。翌日直地ハ大麻山と推
 進る。そまを奪るより。城將百貫預て防禦又備えざる。急
 番ハ品く終えとまバ。偵却て候とも知らむ。雲霞の如き
 上方勢。疾くと進來り。禁又構え一柵麻角搭と。乱草の如
 く撃破り。懸ときそふて攻登る。進急漸く近づく。城

兵救十餘隊の上と露出。一天量又勇屠する。藁葉竹籜と
 各く又挾抱駭しく抛下し。擲散を布とこそあま。地上四
 五寸積上つり。おまがとめ又攻登る。上方勢の騎馬歩卒
 踴僵して足止らむ。惑乱まると城急率喘かぐと又操例
 へ。積貯する大木大石。輒零し投下し。積根震ふて防禦を
 破。これ又撃して進急の危あるハ仰死しあるハ俯癡
 走。絶まで繞める強率猛士も。進まんともする途次矢おひ。
 隸断と名付く。退返を城名ハ視て傍矢ひ。三遭返して捷
 固揚ると。後急命を清まると。駭爆焔として大に噴り。噴
 物く像城將や。壺壺と終つる量。智を揮ふて。自方と悩
 面愕さよ。率余城將が計。激と成て。此方も計激と施さ

但見まきバいつの紫の底又火薬を灌貯しりとおがえて。
 紫の中より燭燧を率然として焼杭き。余一て后は城門
 より。幸丁をりり坂下は向柵車といふもの成推卸一欵
 推進る道路を塞ぎぬ。はやらの車はわくの如柵をつり
 は中へ大石とつと返この車と鉄杖をさしはし仍て基次が
 役々一工夫も促とあり。砲まで巧める亦吉清も。小崎と
 又子一して忙然と。機會も仙石榎谷清久黒田が陣
 一投来り。勘解由孝言よりち對ひ。辞言を情て告るやう。
 咱家居又國初長左衛門といゑる者あり。渠は此地の産
 又して。當城内の虚实等と預め曉識しつ。今日吾は計て
 褶らく。大麻の城中へ山孤獨として地處高く。水脈と筋

る地亦まき由え。城より西北の山谷はあり。五十餘丁の
 峻岨は穿入山腹の溪洞より。日お水と留得て来り。こ
 まを夜食は充るおま。彼の水の流と遮る。晴は。城中
 りあま。難危は遠づん。甚ともて攻勢の術と詭。臨さ
 せまへと言告。然りといゑども最初より。孝言は後忠
 勤と抽んで。別て基次よく謀り。丹精勵力をあつもの。と。
 水攻ともて料理つ。是孝言の切と。櫓は奈ふの嘲とら
 け。且の後後倭の恨と惹んら。余まれば武門の瑕瑾と云
 べ。不若遠縁と孝言は。懐らまく存らるゆゑ。此まで推
 系ありをべると。倍我宛金石よりも堅くり。是と
 聆より孝言は。致遺憾嘆あり。怯てこれと兼所がふく

二赤き大信長所は路して堰謝方此保寨と他の隊より
 攻陥さよ赤へ赤名湯をととり。孝言が赤居侘恨と啣と。
 更又面目と失ふべし。道はあろぬど秀久の徳と請て
 水の隊より。攻蒐りゆふまへし。其報は孝言が圍持とる。
 面門の攻潔は秀久又遜りまろせん。城將助六丸赤つ
 へ。四國は名譽の勇將赤と。酸松らきて雙赤き勲切と
 連玉と。師は義之と盟合。その準儀はそ迄をれける

石田探水路臨大麻山城 属 百貫死

子曳の懸は後まべくとも。一言の義は勳まべろぐ。赤
 ほども石田勘解由次官孝言へ。仙石秀久が伝義をもて。
 城中赤は赤と教指し。水路を断截て。城赤と困苦せし

めよと言されろろ。又針灸と得て。是と後赤基次は禪む
 基次これと探略して。其水の路を搜り入り。皆通より攻
 投らば。一昼夜して城と陥らん。赤秀久が針儀と用え
 る。一旬二旬は落城せし。右も左も俺們は任り
 さよよと赤交まよし。母里太兵衛は捲圖し。四百餘人
 の強卒と幅与。三百挺の弓銃と付せし。謀略とに授し
 つも。大麻山の西北あり。水留運ぶ陰徑へ。情地は向をせ
 し。然して後赤名湯へ。昨日面門の板下は。柵車を推
 却さよ。攻路の口と塞がれてより。赤び工支と繞廻して。
 雲梯を作らし。彼柵車を跨超て。大麻山は沖投らんと。
 最巧まろく。結構赤し。今日母利太兵衛が符門の火の発



後藤基次
 立五材を
 組作らせり
 入間瓦が防
 木御石を
 遮りて



ともなき故軍の。此は乱入するに覺へて。城中さなごり
 沸湯の如く。途方又惑ふて。泥丸を吐。備は後基次へ背
 方の暗号と待所。當日の己刻をくり。到り。大麻の城
 の後背は高り。詰の段の駭ゆるにぞ。おと母利太吉清の
 背方の城門近く推進し。路を用て攻進よと。造設は
 雲の橋梁板にへ推出し。墨安とる作材と。次取は軒して
 探出布どよ。数十輛の柵車は山と成する防禦の石と。探
 へをちまぢ。跨越此時城の背方ある。太吉清が隊の強
 率へ。強く防禦の依えもなき。背方の城戸を跳踰く。
 城中は乱投四方八面は火を放せば。機會は山風は火
 勢烈く。燃熾ると。面方の基次は見るよりも。まを中菴と

と雷鳴一般。とづら槍とおつ挺て。うの雲梯と近通り。
 後又各清基次が。大麻山の一番乗ぞ。続けくと。呼吸
 く。面方の門を撃破り。大羅刹鬼の釣兒と。槍あむむら
 りの怪猛力。人七人齋一。拂僵し。徇外し。最後左右に
 蹴散し。踏去暴は虚てを弛と。とべ。了符は智勇の入る尻
 も掃如頭も碎易なる。従は歩率へ。這取の隈那尾の隙は
 追逼らと。撃きて死を輩致知まむ。然ども勇猛絶倫の。入
 る尻助太左衛門。それより者らぬ長考。我は掃如頭と。づら
 棟器拵縛て。込投敵と。追拂ひ。本丸へ投らんと。まをば。既
 背方より火燃はる。城中大半火燵は。軍まり。堪由べふ
 もあり。まをば。今の施を方。ゆるもなき。城中より。て昏く。

徒死せんも朽憾なきべ。這方と斬抜山と下り。秀次が本陣より攻めて。際よく大將の首撃提。主君元親の突撃。またいらせん。倘事其期に到らざば。戦死せん。初登り。期を覚しとる事よちん。先家一と助六左衛門。掃部頭。過巻むりりの款中へ吐と喚て突て投。千餘万。劔。圓。す。綱。先と怖とむ。接。記。く。血。戦。し。ん。ま。ば。菅。栗。山。併。相。接。り。ね。正。中。と。開。て。通。し。り。此。よ。仙。石。秀。久。を。今。朝。思。田。孝。富。よ。城。又。通。へ。る。水。の。路。と。讓。教。え。し。り。時。又。孝。富。も。亦。笑。と。も。つ。て。面。方。の。攻。め。と。懷。ら。し。り。ども。後。後。傳。勵。で。雲。梯。と。作。り。城。攻。と。專。し。り。ま。ば。先。と。争。ふ。陣。と。せ。ば。二。の。隊。は。依。へ。て。城。將。の。毆。て。出。来。へ。其。時。こ。そ。功。柄。と。成。さ。ん。と。俟。處。

子。今。落。城。と。察。断。て。助。六。左。衛。門。掃。部。頭。馬。と。懸。べ。て。山。下。菅。栗。山。の。隊。伍。と。斬。抜。近。く。と。弛。奇。と。秀。久。驥。と。奔。て。行。ふ。正。解。の。騎。馬。ハ。城。將。入。り。尻。あり。り。ゆ。え。在。難。あ。り。て。款。院。と。諸。こ。そ。待。得。て。本。意。を。是。個。く。あ。せ。ハ。大。麻。の。城。主。助。六。左。衛。門。百。貫。な。る。ぞ。拏。く。漏。さ。む。毆。止。よ。と。憤。怒。の。激。声。裂。決。の。如。く。呼。り。り。指。揮。去。つ。二。將。と。北。堂。は。推。捕。捲。陰。組。合。せ。て。撃。提。ら。ん。と。ま。入。り。尻。莞。不。と。笑。ひ。瘦。相。款。の。勃。噪。ら。ふ。我。侪。が。望。と。被。る。齒。款。ハ。汝。侪。は。あ。あ。ぬ。ども。行。方。の。妨。害。を。お。ひ。て。ハ。一。の。身。体。と。二。は。做。て。得。さ。む。べ。し。命。知。ら。む。の。奴。軍。や。と。班。白。の。鬚。と。吹。動。り。鞭。く。と。嘲。笑。ひ。口。又。又。寸。ある。順。刀。の。鞘。も。刑。ろ。く。を。り。

て。這敵ハ是君ニ冥途ニ導まへべき勇士あり。斯てハ此場
 と退りたま。呂願くハ掃部頭と助けて遁行らんもの
 と。敵強き方とこづり引領怯る方ハ掃部と廻して。
 先ヤ勝負と一声叫び荒木頼母ハ砍て墓る。百貫高日の
 打扮ハ百貫百練一りとのふ崑崙疎の大燈と朽葉を
 の系もて滅して。百貫胴と号けらると。草摺長ニ髭と被
 降。龍牙ハ掃部頭面標赤ら。弓筋盛と抱衣七寸ニ
 餘る。彌弼ハ赤白混ト合せら。大徳棋と前後ニ被散傳
 墨義と雲霧ニ線色一なる大當標と雲倒むりりニ標翻
 一。四尺五寸の太刀と劈甲ニ警懸。荒木頼母ハ砍て墓
 る。這士も各敵の勇士あま。得らりと喚て構り合。秘捨

先ハ爆火ニ等しく回く太刀ハ在波の如く。浮沈進退虚
 虚实く開つ合せつ巴字万字。逆ニ秘密の術と場セハ。勝
 放いつらハ果べらも看ざりらると。荒木頼母原來改捨
 の妙を得とせ。入る尻と欺むらんと。激音て抛くる卒
 の捨ハ入る尻の被ら。盛の八幡座と掠ると。おえ一が。
 背頭ニ負らる書標の正中央へ抛る。助六左兼つ謀
 らるらとハ秋毫織らぬ。荒木ガ抛くる捨奪と。推拮
 整して棚菟る。荒木頼母ハ恒とト。馬と返して逃出と。
 遁さトもの通逼て。危ヤ頼母ハ只一突よと。視る際も
 あらせむ百貫ガ突出捨先くらる際ハ。電光石火より疾
 く。風くら太刀と掣。年もあせむ。丁度撃らる太刀洗ハ。入

る尻が臍より。魁尾の辺まで破返り。これ又何うの堪
 るべき。馬より撞と落る所と荒木も同じく馬より跳卸
 首檢頑て大音発。大麻山の城主入る尻助六左衛門百貫
 と。仙石の家后荒木頼母が毆捉よりと。呼まら声は城名
 輩。今ハちや至此ありと。踏込く。残りなく。我死してそ
 果より。傍長が我が掃頭ハ。椰子奮迅の猛威と顯
 一。難なく一方と破り。自方ハいりよと顔とバ。僅二
 騎のと跟は従ふ。それさ一。百癩千瘡又苦。赤はあつて
 あり。わらわが小息時と堆き園は碎りて。我場を倍と秀て
 行バ。荒木が秘計又入る尻哀とや誓とより。わらわも。掃
 頭も心と決。自方僅虎口と遁出よりとも。入る尻を

と故又毆と自兵も亦汝侑のともあり。あは面目は一の文
 へやうるべき。取て返して深く。我死の外あるべり。と
 と。怒眼は流く血の泪ハ紅紗は罩める珠の如く。齒と唾
 喝して牽返さんと。二後士大は練止して無態はた右
 の纏を把り。馬と追記馳りるところえ。仙石の兵士幾
 と。掃頭と若び推提圍む。然ども屈せま接返りも。かへ
 一。里餘所の山路と。七八遭まで返返り。二騎の従名も
 ちや。我死な一。卒して只單騎士別と高て退り。期て
 意田孝子ハ。大麻山の城と攻抜。城中残らむ。焼く。凱歌
 と唱へて静くと。秀次。郷の本陣へ投束る。と。仙石ハ城將
 百貫と誓のともあり。故首級多と書らして。本陣といり

来り。大将の實檢は偶々とバ。今日の切ハ愚田仙る勝劣
ありとぞ賞美せらるぬ

兩軍上四加一宮関天合戦 属 秀長危難

博大ありる豊公の武威四国と次弟は乗取こと斯の
如し。遠國後令列國の四豪魏の信陵趙の平原奔の孟嘗
楚の寿申ともて守らしむとも。いりてり持果をべき
とと得んや。然れども大和太納言秀長卿ハ三万余騎
の軍勢と進め。又月十日の卯の曙天甲冑干戈と揮いて
阿良一の宮へ推進せ玉ひ。一時は攻逼城を取らんとす
といえども。城地ハ名は負勝境あり。主將ハ智勇の谷忠
兵衛軌信ハ村疎尤東の農景をば。容易陥づる秀長

とバ。蜂須賀は奮が勅め又因て井樓を組柵と固ふ。堅
固は陣廠をらまへり。城は其夜故と謀て。夜撃と絶
るとのふといへとも。蜂須賀一柳侘きびく拒抗で谷
忠兵衛と返返す。あまらの合戦幾次。上方勢の勝利あ
るゆえ白地は在り。大将元親組馬ともて信託を。一
の宮へ後逼し。秀次とと等しく。北方よりハ
小西を留守あさしめ。愚田と初大半ハ。秀長卿の御陣へ
加へぬ。然る又一夜小西行長軍法は背て取段と。いり
が。却て款の孫略は陥院ら。塵はもあまき。志らるを。
愚田蜂須賀とを救ふて。辛くも退陣あり。りりゆえ。乃
長痛く制めらる。て。面目あげ。ひり悪く。時ハ秀長徳

將と集め、軍後の序を闡り是けるが、畠田孝高進くいで。今兩軍加勢と信託の檢と察る。強く我ふ時、やありあん。然をれば、總軍一度、砲て有云の一、我と追むせら。故將のうち谷に村いづきありとも。捉擒とさし面背、又因て謀殺べしと稟呈る。降須賀も遠理もつとも上策ありと同意し、是は大將も、餘又然あらんとおぼしめさき。連時、合戦の準備せり。備城中、谷に村ま外陣、又ハ長考、我が信親、遶る軍後を謀交し。先敗し、る上方勢、臆病神の離れぬうち、推進て撃散さんと准依の、雨へ。畠田降須賀、一隊くく、次第を行て、城下へ、美と推進る。城中も期し、とりきき。同トく隊依と

推出し。金鼓の声、天と震たり。炮矢の响地と勃し。双方とも、陰と投陰、又因陽、又因き、中と割とを、田まはむ。子房が虎と伏せ、術孔明が鬼と使ふ法、練磨と場、根氣と懸ま。他軍も自方も一足退りむ。怒もあり、毆るもあ。怒掃で首と扱もあり。或ハ相撃刺番え。焰火と散して、我ふより。浩る不、降須賀の陣中より。小撥、城の紫裾濃は、赤し。うら。澄挑形、又三光の面標、打たる。甲と忌し。袴毛の馬、又雲、既鞍安せ。十文字の陰と、洋長、又推、俣身の長六尺有餘の勇士。旋風の如く、馬と進ませ。鞍笠、言く突起。破境、又等しき。大音、拳、遠く、人、故ハ耳、又徹、系よ。近き、奴輩、ハ目、又怖し。降須賀、彦、去、弟、つ、家、政、が、自、内、又、長、に、お、ま、る、

入間尻
助六左門
荒木が刃鎗
の欺計
の
陥る



懸が一子半三郎の房あるハ。城將に村谷の兩人いづれ
ありとも見えやんと号慕つ馬と躍らせ群る款の正
中へ吐炮の如く棚て入り。千面万角あるも任せ難忌所
伏叩起人なき所と弛るが如く。血烟活く攻慕々とは。古
まゝ継て稲田青山河口梶田日比孫松原長はと撃まふ
快進めと崩山溢水の勢あり。まゝもくくと進ぐ。江村
意よりてあるあり。長はが大膽の傑戦と看て。憎き小童
が我相り先く渠奴が首扭頑て款名の肝を冷してく
とんと大荒目の遣の上は青地の綿の戦外套と看し。烏
帽子形の疎塊の須と紫と緘整し。三尺八寸の順刀の鞘
打鞆巻一奔は。断と混して。霽濕し。隻上段よりりりざし。

まゝの村孫たあつちの旗下におひて吉良義右衛門
徳あり。長は知房そて動くふと。撃て跑ると得くらハ恭
徳はが首ハ佚ありや石ありや。佚石もよく柳傲を。まが
喰食ふて修羅界の。話の種よせようしと。いたせも起む
夷友あつ明星の像き眼と瞑らし。舌賢くも吼啼り。先
その唇唇裂くまんと。一喝叫んで斬る。長はも同く
発声とりけ。槍と槍と互り合一上一下修練の突戦。胸前
鳩んと晃む槍の尖頭ハ。鉦山あり。の腰より出る電光
の地上と走るも突あふむ。然まども吉良ハ物ともせむ。
受流して亦お拂ひ。連は我む双の光ハ。鳴戸は映る月影
の。波の速く狂ふも似たり。安ふお込の太刀あり危く

柳出虚の捨ありて。戦車もつとも奇く怪く。わうごあり。
多ん夷ちあつ。長にグ捨と受張り。右の膽へ突込せしり。
強膽の右良咄も怪まむ。其采捨と肱腕又たさる。劈申微
塵又次込大刀狭挿尻と揚て丁度受止腰操倚せて無匹
と柳二勇の力又馬蹄もさまらむ。鞍傾け右良長に兩
馬が際又撞とおち。霎時ハ扭合在り。一捨受く夷
右あつ。怪むとあると半之至。遂又押布首搔墮し。馬ひき
遠して騎らんとさる。に村黨の城名輩。長に刺さる
お捉と。群進と半三郎速くも馬又跳乗て。隻頬又笑
。女們も借夷と。同トく冥途の導あさん。先や来と
柳紀く。傑然しり。猛勇又面と向べき故も亦く。怖振

ふも逃走る。に村孫ちあつ。こととあて。強又怖し。壯我
者うあ。勇銃ともて撃捉と。指揮も早らぬ後踏より。各忠
各弟が一隊位續く。あつて頼紀。これいり。よとあて
やと。巴。悪田が軍勢不意と替て。各忠各弟が横合より。路
あまき山と跑下り。八百余人次込せしり。これ又周て谷の軍
勢一堪もあく。に村が陣へ輝り。ると。孫ちあつ。救さん
とさ。ま。長に初め。稲田青山の峰須賀意励しく捨紀
攻着り。ま。谷もに村も途と突あひ。城へ退入あともあ
あ。ハ。亦信親と一隊又あ。べき路も絶り。九死一生
の苦戦して。いと危くあ。り。と。加勢の副将熊谷四郎
左衛門。吓城名と助くべし。と。推桑さんとあ。り。と。大

將信親制して曰く。今城名と救をんとせば。自方却て推
類さきて。総攻軍又遠ぶべし。殊に秀長秀次併後路と單
で撃つるに。最も自方の大害あり。汝們一隊より力と勤
て。秀長が陣と破るべし。然されば。敵の大將の身は心牽
きて。崩れんこと必定あり。是一大軍の合戦あるを。を
げめくと指揮しつる。信親采配お揮く。正一門地
馳出せば。南蠻鉄の澄の袖と。紺地綿の直正袍と。風を啼
で翻り。榮塚像の銀兜も。仰ぐむり。秀長が本陣さ
て。猛入りつると。牽繼て。熊谷勝直近來へを。や丈八の。二尖
槍も。面倒ありと。綱と半分待交する。十八貫目の棒振
匣。突然として。攻投りし。本陣忽地崩起さんぐり

まつて。亂走を。堀仙石。倅も。志ばし。が。布どへ。逃戦ふとい
へども。信親。猛奮。狂怒して。接起く。吹散。中にも。熊谷
曰。希を。来つ。飢。勝。が。兎。猿。と。追。搦。る。よ。り。猶。怖。し。き。眼。して。
秀長の。本陣へ。走。入り。只。願。大。將。と。撃。止。め。んと。東西。又。鹿
南北。又。猛。り。嗷。叫。で。鼓。記。を。ば。秀。長。も。今。の。堪。り。兼。馬。又。鞭
うち。双。拍。の。と。て。後。の。山。へ。逃。ら。る。と。熊。谷。迷。く。も。跟。逐
逼。て。これ。へ。大。將。大。納。言。秀。長。と。秀。と。へ。僻。目。の。款。又。後。と
秀。と。秀。へ。村。柴。の。家。の。名。お。あ。ら。む。や。返。り。て。勝負
し。五。え。斯。の。响。へ。熊。谷。曰。希。を。来。つ。勝。直。あり。と。活。樹。も
振。倒。る。む。り。の。大。音。あ。げ。逃。跑。來。る。そ。の。際。隔。稍。十。安
ま。の。さ。ざ。り。り。と。危。や。熊。谷。が。練。枝。の。下。に。懸。竹。さ。ら。べ

ふあえくろふ。仙石助兵衛見事と。取て返して遮り。
 熊谷大は怒をまつ。傍にも遮断する奴ら。大持の傷
 あり其路去と。棒横さぬ又拂ひ去る。助兵衛も命無双
 の勇士逐つ返一つ戦ふ。巻ふりり。秀長卿。おの
 際。辛き命と据ふて。山徑傳ひ又逃遁。銀又へ仙石
 熊谷。火水とあつて。争ふ。推兵衛。秀久。ちり。又
 て。呼く。彼。又。圓。互。る。浪。の。花。車。の。齒。擦。る。黄。糸。織。の。襪。被
 くる。を。慥。又。仙石。助兵衛。あり。快く。投げ。殴。ま。な。と。指揮
 する。声。の。早。ら。ぬ。二。百。余。人。突。走。る。熊谷。後。目。又。去。と
 看て。行。呼。勝。断。し。や。遠。檻。松。兎。也。え。大持。の。故。と。逃。り。
 切て。汝。と。勝。愈。と。勇氣。と。烈。ま。し。纏。お。る。三。四。度。勅。く。お

る。受。ら。る。太。刀。の。鐔。根。より。拂。躑。と。折。て。咄。も。堪。ら。む。
 頭。と。微。塵。又。撃。碎。る。馬。より。落。て。ぞ。死。ぐ。り。り。る。浩。る。不
 え。仙石。秀久。馳。急。ま。し。熊谷。と。表。く。と。推。捉。圍。も。殊。を。ま
 くと。攻。戦。ふ。回。糸。左。桑。つ。勝。直。も。身。疾。る。あ。ら。ざ。る。馬。
 も。主。も。大。は。破。は。流。傍。あ。が。も。致。ら。ぬ。又。勇。い。と。く。あ
 や。ふ。り。り。り。と。信。親。徳。方。の。故。と。逐。去。回。方。と。儼。と。視。面
 する。山。方。又。合。戦。の。あ。る。相。あり。殊。又。熊谷。の。視。え。さ。る。ハ。
 意。惱。し。と。飛。が。如。く。又。馳。来。り。看。ま。は。遠。り。げ。回。糸。左。桑
 つ。免。急。の。軍。あ。り。在。り。り。由。え。仙石。勢。と。斬。去。退。去。經。あ。く
 熊谷。と。救。出。し。凜。然。と。し。て。引。退。く。佐。兵。衛。田。津。須。繁。若。衆。
 一文。の。城。壘。と。乗。取。べ。いと。三。將。一。度。又。谷。江。村。と。追。撃。し

つも。城は向ふて投殺らんとき。然ども所及才一の。堅城
 亦も。容易く登得がとき。換會しも。秀長々の御本陣へ。
 敵將信親礼入して。大将へ戦死し玉ふ。なごいふ流言の
 聆えりりゆえ。徳將大は警備あり。城と奔て取て返す。是
 一氣と得て谷の村。再度山と近下し。八角十方へ近散ら
 め。了符の墨田峰。頭賀も。隊伍と礼して。散走しりりぐ。
 漸くふりて一隊の。列行と儼と立營し。程一戦と挑
 まんとまら。日輪西海に沈し。至とば。朽憾り。ととも退
 去りり。遠後双方対陣して。合戦ハ累日休よりり

繪本豊臣惣切紀八編卷之八了

177
90
254

197
90
254

